

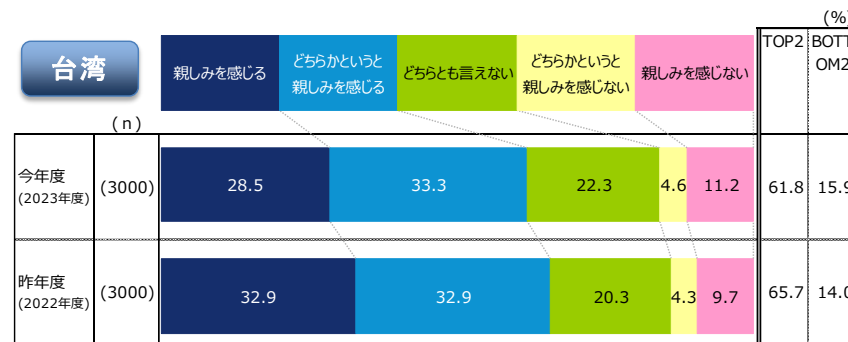
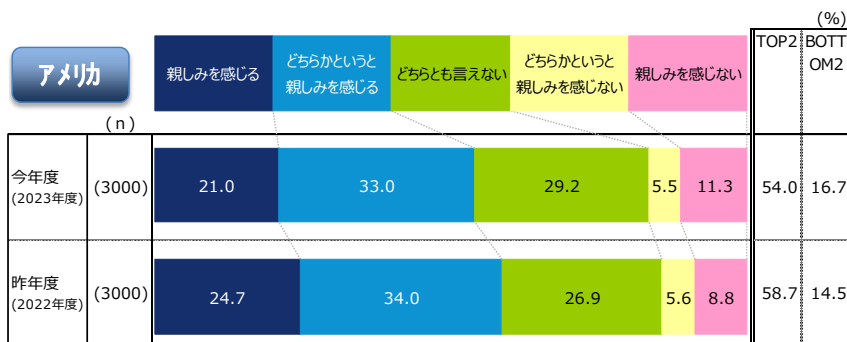
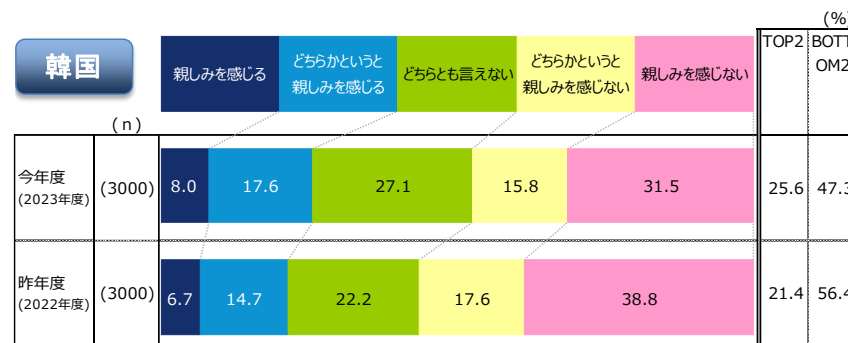
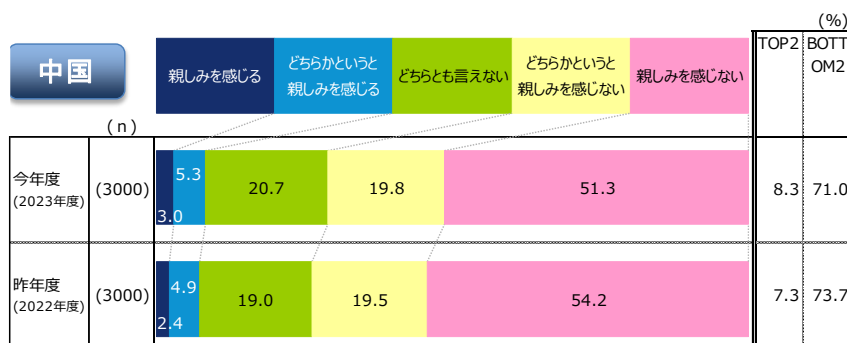
Ⅲ. 調査結果（経年比較）

<経年比較> 親近感

Q1.以下の国/地域に対する親近感について、それぞれ教えてください。【SA】

2023年度と2022年度の調査結果比較

- ・ TOP2（親しみを感じる+どちらかという親しみを感じる）の割合について、中国（7.3%⇒8.3%）、韓国（21.4%⇒25.6%）は増加している。一方で、アメリカ（58.7%⇒54.0%）、台湾（65.7%⇒61.8%）へ減少している。
- ・ BOTTOM2（親しみを感じない+どちらかという親しみを感じない）の割合について、中国（73.7%⇒71.0%）、韓国（56.4%⇒47.3%）は減少している。一方で、アメリカ（14.5%⇒16.7%）、台湾（14.0%⇒15.9%）へ増加している。

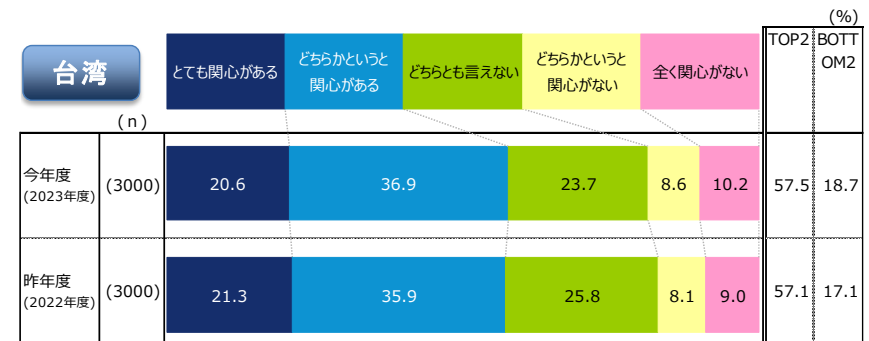
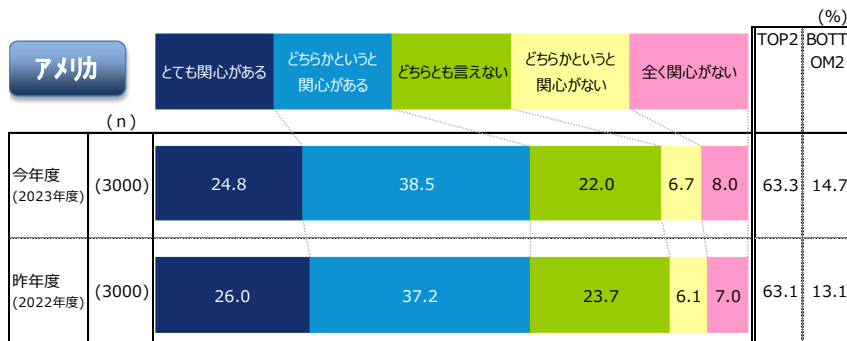
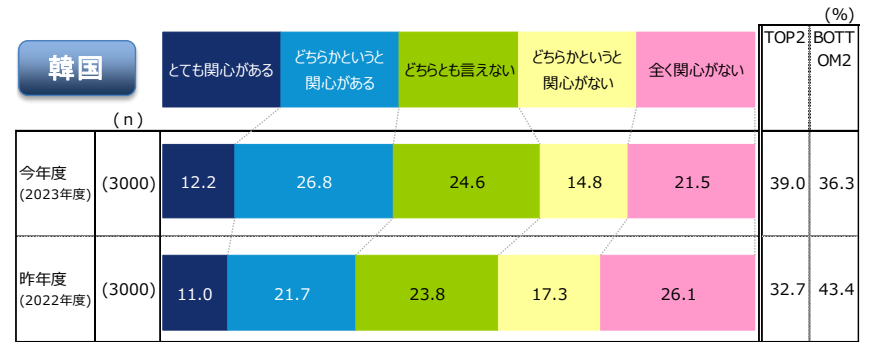
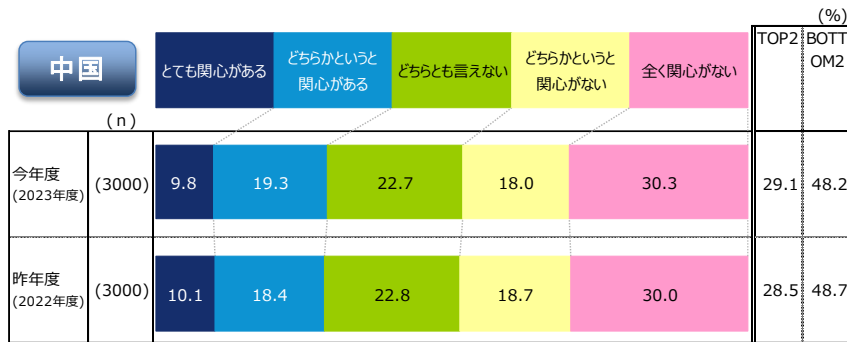


<経年比較> 関心度

Q2.以下の国/地域に対する関心について、それぞれ教えてください。【SA】

2023年度と2022年度の調査結果比較

- ・ TOP2（とても関心がある+どちらかというに関心がある）の割合について、中国（28.5%⇒29.1%）、韓国（32.7%⇒39.0%）、アメリカ（63.1%⇒63.3%）、台湾（57.1%⇒57.5%）は増加している。
- ・ BOTTOM2（全く関心がない+どちらかというに関心がない）の割合について、中国（48.7%⇒48.2%）、韓国（43.4%⇒36.3%）は減少している。一方で、アメリカ（13.1%⇒14.7%）、台湾（17.1%⇒18.7%）へ増加している。

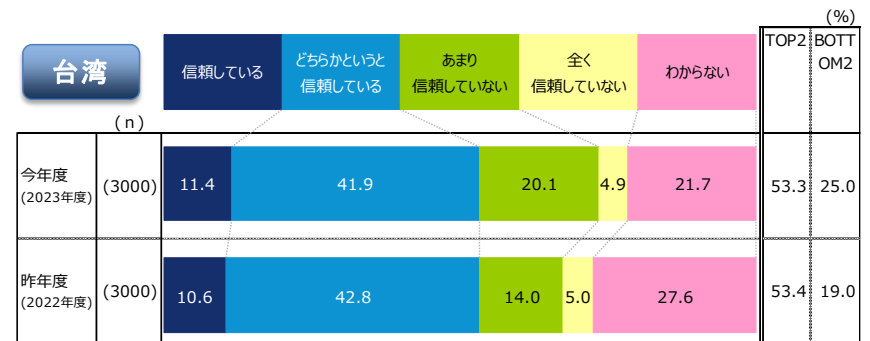
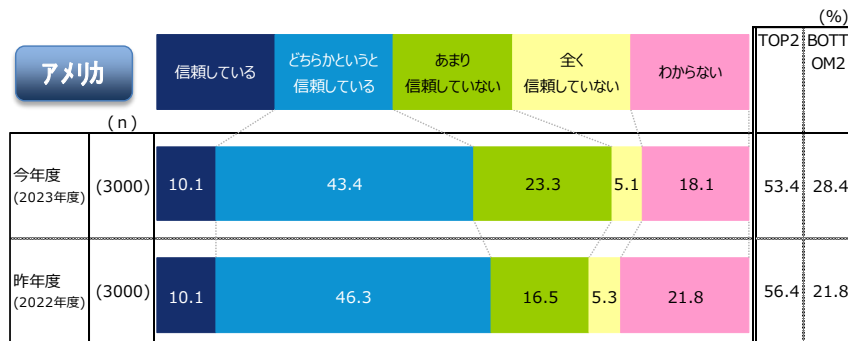
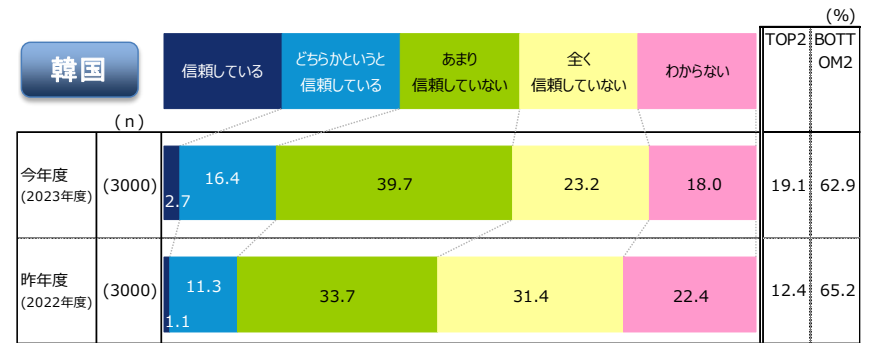


<経年比較> 報道の信頼度

Q4.以下の国/地域のメディアによる日本に対する報道を、あなたはどの程度信頼していますか。【SA】

2023年度と2022年度の調査結果比較

- ・ TOP2（信頼している+どちらかという信頼している）の割合について、中国（3.7%⇒7.3%）、韓国（12.4%⇒19.1%）は増加している。一方で、アメリカ（56.4%⇒53.4%）、台湾（53.4%⇒53.3%）へ減少している。
- ・ BOTTOM2（全く信頼していない+あまり信頼していない）の割合について、韓国（65.2%⇒62.9%）は減少している。一方で、中国（76.1%⇒76.4%）、アメリカ（21.8%⇒28.4%）、台湾（19.0%⇒25.0%）へ増加している。

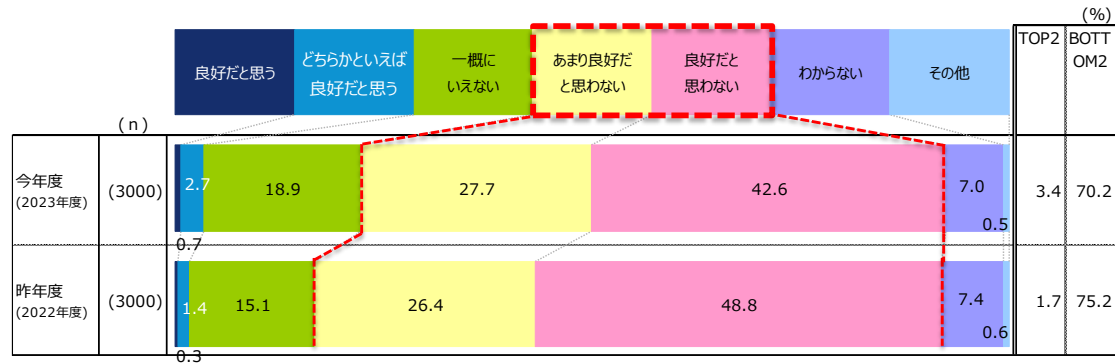


<経年比較> 日中関係

2023年度と2022年度の調査結果比較

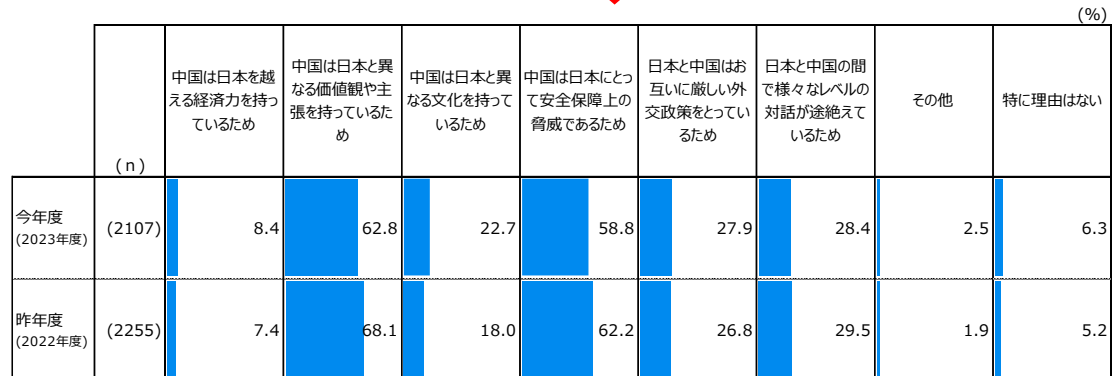
- 日中関係について、TOP2（良好だと思う+どちらかといえば良好だと思う）の割合は1.7%から3.4%へ増加し、BOTTOM2（良好だと思わない+あまり良好だと思わない）の割合は75.2%から70.2%へ減少している。
- 良好だと思わない理由では、「中国は日本と異なる文化を持っているため(18.0%⇒22.7%)」の割合は増加しているが、「中国は日本と異なる価値観や主張を持っているため(68.1%⇒62.8%)」「中国は日本にとって安全保障上の脅威であるため(62.2%⇒58.8%)」の割合は減少している。

・日中関係 (Q5)



「あまり良好だと思わない」～「良好だと思わない」理由

・良好だと思わない理由 (Q6)



<経年比較> 日中関係進展のための有効な取り組み

Q10.日本と中国の関係を進展させるために有効な取り組みについて、次の選択肢のなかからあなたの考えに近い回答を3つまで教えてください。(複数選択可)【MA】

2023年度と2022年度の調査結果比較

- 日中関係進展のための有効な取り組みについて、「国家首脳の定期的相互訪問(20.7%⇒26.3%)」「文化・芸術をはじめとする様々な分野の交流の促進(21.8%⇒28.9%)」「日本と中国の経済関係の強化(24.0%⇒28.7%)」「気候変動対策や感染症対策など地球規模の問題に対する相互協力の促進(15.2%⇒19.6%)」の割合は増加している。「お互いの歴史認識における和解の実現(32.5%⇒26.2%)」の割合は減少している。

(%)

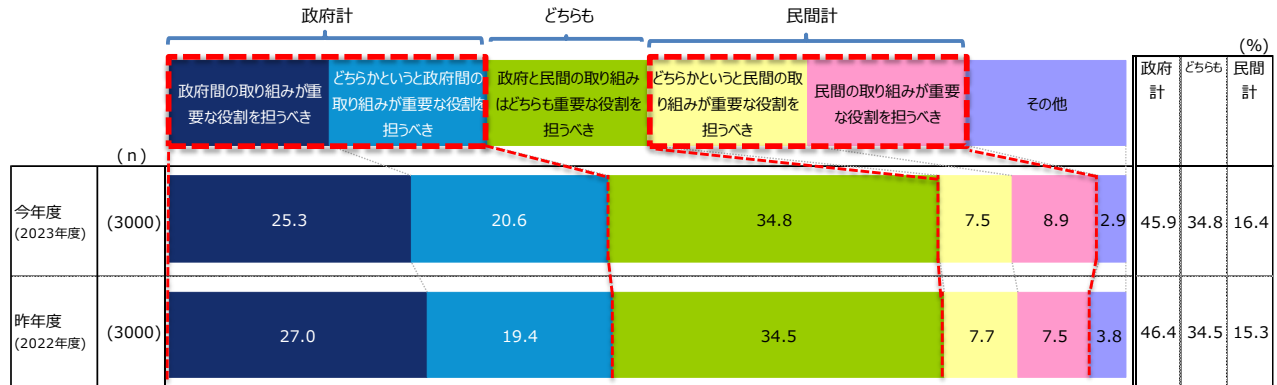
	(n)	国家首脳の定期的相互訪問	日中両国間の政治・安全保障関係の強化	文化・芸術をはじめとする様々な分野の交流の促進	日本と中国の経済関係の強化	諸外国における紛争や災害発生等の相互協力の促進	気候変動対策や感染症対策など地球規模の問題に対する相互協力の促進	お互いの歴史認識における和解の実現	その他	わからない
今年度 (2023年度)	(3000)	26.3	33.1	28.9	28.7	14.1	19.6	26.2	2.1	26.8
昨年度 (2022年度)	(3000)	20.7	33.3	21.8	24.0	14.3	15.2	32.5	4.9	26.1

<経年比較> 日中関係の取り組み主体

Q11.日本と中国の間においては政府間のハイレベル対話から民間の草の根の活動まで様々な活動が行われています。今後の日中関係をより健全なものに発展させていくために、あなたは政府と民間の取り組みではどちらがより重要な役割を担うべきだと考えますか。【SA】

2023年度と2022年度の調査結果比較

- 日中関係の取組主体について、政府計（政府間の取り組みが重要な役割を担うべき+どちらかという政府間の取り組みが重要な役割を担うべき）の割合は46.4%から45.9%へ減少し、民間計（民間の取り組みが重要な役割を担うべき+どちらかという民間の取り組みが重要な役割を担うべき）の割合は15.3%から16.4%へ増加している。
- 上記の理由については、大きな差はみられなかった。



Q12. 「政府間の取り組みが重要な役割を担うべき」～「どちらかという政府間の取り組みが重要な役割を担うべき」理由

政府計

(n)	政府間の取り組みは民間の取り組みよりも予算が大きく、社会的インパクトも期待できるから	民間の活動は両国の様々な法律や規制に縛られるため、政府間の取り組みの方が有効に働くから	政府間の取り組みは民間も参入できる新たな枠組みを作ることができるため	政府間の取り組みは両国民の安全に十分配慮するため様々なリスクが回避できるから	政府間の取り組みはハイレベルな対話を通じてお互いの情勢や方針を認識することができるため、的確な対応を選択できるため	政府間の取り組みは両国の方針に沿ったものになるため、長期にわたり大規模なプロジェクトを実施できるから	その他	わからない
今年度 (2023年度) (1376)	32.2	36.2	24.6	29.9	26.5	14.1	1.1	19.9
昨年度 (2022年度) (1393)	32.9	37.9	24.6	30.6	28.1	13.5	1.8	15.7

Q13. 「どちらかという民間の取り組みが重要な役割を担うべき」～「民間の取り組みが重要な役割を担うべき」理由

民間計

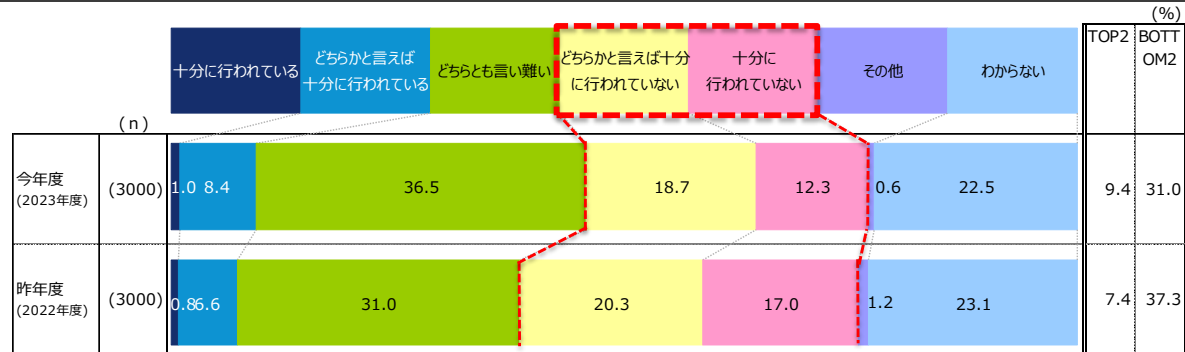
(n)	戦後の日本と中国の関係回復は民間交流が政府間交渉の機運を醸成してきた実績があるため	政府間の交渉では妥協が難しい問題においても、民間の交渉は合意を得られやすいから	政府間の交渉や対話は形式的になるため誤解を招く可能性もあるが、民間交流では時間をかけて本音を伝えるため信頼関係を築くことができるから	政府間では着手が難しく棚上げになる問題においても民間の交流では自由な発想のもとに実施できる可能性があるから	政府間の取り組みはきめ細やかな対応が難しく、民間の取り組みは当事者の要望がよく反映できるから	政府間の取り組みに参加できる人は限られているが、民間の取り組みは誰でも参加できるため社会に浸透しやすいため	その他	わからない
今年度 (2023年度) (493)	10.1	19.1	20.3	21.3	17.6	23.9	0.8	40.8
昨年度 (2022年度) (458)	7.4	18.8	19.4	23.8	16.8	28.4	1.7	33.6

<経年比較> 日中間の民間交流

2023年度と2022年度の調査結果比較

- ・日中間の民間交流については、TOP2（十分に行われている+どちらかと言えば十分に行われている）の割合は7.4%から9.4%へ上昇し、BOTTOM2（十分に行われていない+どちらかと言えば十分に行われていない）の割合は37.3%から31.0%へ減少している。
- ・促進すべき日中間の民間交流分野については、「交換留学など教育分野における交流(17.1%⇒22.8%)」「文化・芸術分野の交流(27.6%⇒34.2%)」「スポーツ交流(11.4%⇒15.6%)」の割合が上昇している。

・日中間の民間交流 (Q14)



促進すべき日中間の民間交流分野

・促進すべき日中間の民間交流分野 (Q15)

